

ハノイ日本人学校の村上です。

前回は、ベトナム教育の状況と課題について、地方の小学校とハノイ市内の小学校を例にとりながら学習の様子について紹介しました。今回は、子どもたちの休みの様子についてこれもハノイ市の学校を例にとりながら、その様子をお知らせします。それでは、まず基本的なところから紹介しましょう。

1 ベトナムの学校の休日

(1) 通常の休日は

ベトナムの学校は日本と同じように、月曜日から金曜日まで学校があります。そして、土曜日、日曜日が休みです。最近この制度が定着していきました。それ以前は、土曜日にも授業がありました。しかし、私のみる限りでは、休日の土曜日に学校に相変わらず行っている生徒をよく見かけるのです。話を聞いてみるとどうも学校での「補習」に行っているようです。それも、前回書きましたが担任による私塾的な「補習」のようです。ですから、ほんとうに学校が休みとなるのは日曜日だけなのです。

この休みに子どもたちはどのようにして過ごすかという、これは日本と同様にさまざまです。ハノイ市内のある小学校で子どもたちに休日に何をするか尋ねてみたところ、「友達と遊ぶ、塾に行く、テレビを見る、何もしない」などの答えが返ってきました。日本と余り変わらないですね。そして、家族団欒の日でもありますので、家族揃ってバイクに3～4人乗りして買い物に出かけたり、遊びに出かけたりします。一台のバイクの一番前に立ち乗りした上の子ども、二番目が運転手のお父さん、その後ろが一番小さな子ども、最後尾がお母さん、といった運転風景は、休日によく見かけます。これもバイクと車という違いはありますが、日本とあまり変わりません。

ハノイ市郊外に出ると水田地帯が広がっていますので、この様子も一変します。ベトナムの主産業である米づくりも日本と違って二期作・三期作ですので、子どもも大切な労働力として期待されます。稲刈りの時期などは、稲束を運ぶ姿を田んぼでよく見かけます。いつもよく見かけるのが、牛の世話です。午後になると、家の牛何頭かを水田の畦道や道路脇の草むらに連れて行き、餌となる草を食ましています。牛が餌を食んでいる間、子どもは特に何するともなくそれを見守っているだけなのですが、牛を草むらまで安全に連れて行き、夕刻までに家まで連れて帰ることは子どもの大切な役割なのです。もし、皆さんがベトナムに来られたら、必ずこの風景に出会うことでしょう。では、農村部の子どもたちはたいへんかと言うと必ずしもそうとは言えないようです。なぜなら、泥だらけの小川で何人かの友達と水浴びをしたり魚を捕まえたりする姿は、ハノイ市のような都市部では味わえない経験であり、子どもの年代の人からすると懐かしい記憶が蘇ってくるからです。



水牛の世話をする少年

(2) 長い休みは

ベトナムの長期休業は、夏休みとテト休み（旧正月休み）だけです。日本のような冬休みも春休みもありません。

① 夏休み

夏休みは通常5月末の年度末試験の後にやってきます。9月の最初に独立記念日の連休がありますから、そこまでが夏休みということになり、だいたい3カ月間も夏休みが続くことになります。

3カ月間以上もどうやって過ごすのだろう、と率直に疑問に思いましたが、その仕組みを聞いて、なるほどとも領きました。

小学校の場合は、最初の2カ月間ほどは確かに休みのようです。しかし、夏休みに入ったときには例の「補習」が待っているのです、一週間の内3日程度学校行き、前学年の復習をします。学校の補習の期間が終わると今度は、夏休みの特別メニューの塾に行きます。例えば、英語、数学、文学をはじめ、音楽、絵画、ダンス、武術などが主なものです。各地域に少年宮のような文化施設があり、夏休みには習い事をする子どもたちでいつもいっぱいです。最近このコースの中で日本語も人気コースとなっている所もあると聞きました。

最後の1カ月は、「新年度のための準備の授業」があります。新担任が授業をする所もあるそうで、私たち日本人の感覚からすると「えっ、学年が始まっていないのにもう新担任が勉強を教えるの?」という感じです。確かにあまりにも長い夏休みですと、今まで勉強したことも全て忘れてしまうのではないかと心配しますが、それにしてもやりすぎではないかと感じるのは私一人ではないはずで、これが、中学校・高等学校になりますと、様相が一変します。夏休みは、最初の2週間程度でその後の2カ月半は、進学に向けての専科の教員による各教科の復習中心の補習となります。また、この補習に係る費用負担も相当なものようで、保護者の悩みの種の一つです。

それでも、小学生の夏休みは夏休みですので、子どもたちの自由な時間もたくさんあります。小学生の頃は、やはり近所の子どもたちと遊んだり、家の手伝いをしたりします。男の子は、サッカーが一番人気です。ボール一つあればどんな狭い場所でもすぐにサッカーが始まります。女の子は、ゴム跳びをしたりする姿を時々見かけますが、男女を問わず最近では電子ゲームをする姿もよく見かけるようになりました。

もちろん宿題も学校からですが、日本ほど多くないようで、数日で片づけてしまい後は自分の自由な時間を楽しんでいることが多いようです。



夏休みで友だちと水遊びをする子どもたち

② テト休み

この休みは、日本で言う正月休みですが、ベトナムでは旧正月で祝いますので年ごとによって開始日が異なります。来年は、2月28日が元日となり、前後の2週間程度はどの学校も休みになります。大学生などは故郷へ皆帰り、家族・親族と過ごしたり友人宅を訪問したりして過ごします。

まだまだ、娯楽の多くないベトナムの子どもたちにとっては、宿題も無く、「リーシー」と呼ばれるお年玉をもらうことができたり、ごちそうを毎日のように食べたりすることのできるとても楽しい休みとなります。この休みの期間は家族とともに過ごすことが多いですから、家族・親族のつながりの強さを実感し、ベトナムの伝統文化をしっかりと学ぶ休みとなります。